

平成 30 年度第 7 回地域福祉計画策定・普及推進委員会会議録

会議の名称	平成 30 年度第 7 回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会
開催日時	平成 30 年 12 月 4 日（火） 午後 7 時から午後 8 時まで
開催場所	保谷庁舎 1 階会議室
出席者	【委員】熊田委員（委員長）、滝沢委員、篠宮委員、妻屋委員、中野委員、中村委員、渡辺委員、櫻井委員、小野委員 （欠席者）伊藤委員（副委員長） 【事務局】健康福祉部長、生活福祉課長、生活福祉課 4 名
議題	1 開会 2 議題 （1）前回会議録の確認について （2）素案について 1. 第 4 章 重点的な取組 2. 第 6 章 評価指標の設定 3. 基本理念 （3）その他
会議資料の名称	資料 1 平成 30 年度第 6 回委員会会議録（案） 資料 2 第 4 期西東京市地域福祉計画 素案
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）前回会議録の確認について</p> <p>○ 事務局 ―――資料 1 に沿って説明―――</p> <p>○ 委員長 前回会議録について、修正、ご意見等はないか。</p> <p>（意見なし）</p> <p>（2）素案について</p> <p>1. 第 4 章 重点的な取組</p> <p>○ 事務局 ―――資料 2 に沿って説明―――</p> <p>○ 委員長</p>	

ご意見、ご質問等はないか。

○ 委員

29 ページ「関連機関等の連携」の図の地域包括支援センターの下にある、「基幹相談支援センター」とはどこのことか。また、この図に「民生委員・児童委員」を入れていただくとありがたい。

○ 事務局

基幹相談支援センターというのは、障害福祉課が行っている窓口である。

○ 委員長

連携する機関の1つとして「民生委員・児童委員」もぜひ加えていただければと思う。

○ 委員

31 ページの「検討の方向性」の1行目、「市の情報発信に関しては、これまでも行ってきた市民に分かりやすい情報発信をより充実させるため」という文章について、30 ページでは、「アンケートの結果では、依然として「分かりやすい情報の提供」が高い割合で求められており」と、不十分だというところ書かれているので、31 ページも同様に、「これまで市民に分かりやすい情報発信に努力したけれども、依然としてまだ十分ではないようなので、これからも新たな手法を含めた情報発信の方向を工夫していきます」という書き方にしたほうが、前ページとの整合性がとれると思う。

○ 事務局

「これまでも努めてきましたが、引き続き新たな……」という修正ではいかがか。

○ 委員

それで結構である。

○ 委員

29 ページの「基幹相談支援センター」というのは、市民には分かりづらいのではないか。

○ 委員

「基幹相談支援センター」というのは障害の窓口の機能を指す表現だと思う。「基幹相談支援センター」という名称は削除して、「障害の窓口」などと書いたほうが市民には分かりやすいと思う。

○ 委員

障害の支援センターは「えぼっく」だと認識している。

社協に関するところも「あんしん」と「地域福祉コーディネーター」が書かれているが、このように、個の名称のもの、窓口、団体などが混在していて、違和感がある。

○ 委員

確かに、「地域福祉コーディネーター」は役割の名称なので、窓口の名称で書くのであれば「ほっとネットステーション」がいいのではないかと。そこも含めて、固有名詞を確認していただければと思う。

○ 事務局

ご指摘のとおり整合がとれていないので、確認して整えたいと思う。

○ 委員長

この絵を誰に対して見せたいかだと思う。市民に見てもらいたいのであれば、身近な窓口の名称にしたほうがいいし、専門機関や連携する機関に見てもらいたいのであれば、抽象的な形で挙げて構わないだろう。いずれにしても、一貫性が大事になってくる。

今のご意見を総合すると、市民が見て分かるものにすべきということなので、市民に公式で出している名称をベースに整理していただくといいと思う。

○ 委員

30 ページの図の、「市の情報発信」の下の1つ目の「市広報」は「市報」の方がよい。

○ 事務局

「市報」に修正する。

○ 委員長

「市報」に修正するのであれば、市報の名称も入れておくとより分かりやすいと思う。

○ 委員

26 ページの3段落目に、「放課後カフェや子ども食堂など……自主的な活動が増えてきています」とあり、26 ページと27 ページの図の中で、それらは「さらに細かい地域単位」のところに位置付けられているが、例えば「放課後カフェ」は中学校単位でやっている活動なので、「さらに細かい地域単位」よりも少し大きい圏域になると思う。図では20 圏域よりもさらに小さい、本当にご近所での活動というように見えるが、これでいいのか。

○ 委員長

圏域と活動の内容が合っていないというご指摘だと思う。確かに、「細かい」では地域を細分化したイメージになるので違和感がある。「さらに細かい」ではなく「さらに身近な」という表現にしてはどうか。

(異論なし)

○ 委員長

「身近な」にすれば整合がとれると思うので、そのように修正をお願いします。

2. 第6章 評価指標の設定

○ 事務局 —————資料2に沿って説明—————

○ 委員

58ページの「評価指標の設定」の文章について、評価の意義を最初に書いてはどうか。

2点目に、58ページの表の中の記載について、例えば、基本目標1では「地域におけるボランティアの実施」の下に2つ書かれているが、基本目標2は文章で書かれている。表記の仕方に一貫性がないので、統一したほうが良いと思う。

○ 委員長

1点目は、なぜ評価をするのかという意味の記載が必要ではないかというご意見である。

○ 事務局

ご意見のとおりだと思う。説明を加えたいと思う。

○ 委員長

なぜ評価するのかという記載は、「評価指標の設定」のところに進行管理のことが書いてあるので、ここの中に書き加えていただくといいと思う。

2点目の表の中の表記についても、ご指摘のとおりだと思うので、統一した表記にしていればと思う。

○ 委員

58ページの目標値の数値はこれから入るのか。

○ 委員長

そうである。

○ 委員

そのときに、例えば、基本目標4の「地域包括支援センター相談・対応件数」は、包括や高齢者支援課から目標値が提示されるのか。

○ 事務局

各課でこれまで集計したものと認識している。

○ 委員

過去のものはあるが、包括では、今まで目標値は挙げていなかった。今後は挙げなければならないのか。

○ 事務局

ここに関しては、今、担当部署に確認の作業をしている。パブリックコメントの段階ではまだ載せられないと思うが、最終的な計画書には載せたいと考えている。

○ 委員

包括の相談件数だけが評価目標というのはどうなのかと思う。件数の取り方も、今年度からシステムが変わったので、前年度との比較は難しい。

○ 委員長

なぜこの数値なのか、なぜこの項目なのかという思いは確かにある。

例えば、基本目標4の「サービス内容の充実・向上のためのしくみづくり」の評価指標の項目が、「地域包括支援センター相談・対応件数」と「福祉サービス第三者評価の受審件数」になっている。数値にしやすいところを項目に挙げたというのが事実だとは思いますが、次の5年後の計画策定の時に、これらが基本目標4の評価項目として耐えうる項目なのかどうかというのは、とても重要である。

○ 委員

包括の部分に関して言えば、包括の機能強化は本当に大切なことだけれども、それイコール相談件数ではないので、他の数値でもいいのではないかと思う。

○ 委員長

地域包括支援センターの相談・対応件数が上がるのが、どういう意味を持つのかという説明は、用意しておいたほうがいいと思う。

○ 事務局

総合計画との整合を図り設定したものである。

現在、総合計画の後期の計画の指標についての検討もなされている最中である。最終的には改めて総合計画と整合をとって修正をかけたいと思う。

○ 委員長

この第6章の中には、総合計画との関係性についての文言は入っていないので、総合計画との連動で、この数字を設定しているということを明確に書いたほうがいいと思う。

総合計画で数値が難しいという判断が出ているということであれば、当然ここにも載せられないので、そこも総合計画とすり合わせていただければと思う。

○ 委員

「定期的に」とあるが、毎年なのか、それとも、3年とか5年後にやるのか。例えば、次の地域福祉計画を作る時に、またアンケート調査と地区懇談会を実施すると思うので、そこで5年越しの数値の変化を見たほうが参考になる。

○ 委員長

この委員会は「地域福祉計画策定・普及推進委員会」という形になっており、計画を作った後も継続的に参集し、この計画の進行管理をしていくという機能も持っている。したがって、5年後の策定の直前に評価をする形ではなく、理想的には年度ごとに評価ができたほうが望ましい。そのためには、2023年時点での目標値を設定して、そこまで到達するときに、現状ではどのくらいになっているかという距離感を測りながら話ができるので、23年の目標値を決めておくことは意味があると思っている。

○ 事務局

毎年度、庁内に進捗状況調査を実施し、委員会にそのご報告をして、それに対して頂いたご意見を庁内にフィードバックするような形で行っていきたいと思っている。

アンケートや地区懇談会から得られるいわゆる「市民の実感」の部分については、基本目標1、2、5にはアンケートによる評価指標を載せている。なお、今回の計画策定の段階では、指標との連動を意識せずにアンケートを実施したので、次期の計画策定の際のアンケートでは、指標との連動を意識したアンケート設計をしていきたいと考えている。

○ 委員長

西東京市では地域福祉計画で目標値を設定するのは初めてで、実験的な試みだが、まずは、このように評価指標を決めるということだけでも大きな進歩だと考える。

3. 基本理念

○ 事務局 ———資料2に沿って説明———

○ 委員長

事務局から説明があったが、ご意見等はないか。

○ 委員

委員から様々なアイデアが出ている中で、なかなか一つに決められないのではないかと
思っていた。今の事務局の説明を聞いて、私はこれでいいのではないかと思った。

○ 委員長

ご異論はないようなので、今回の基本理念のサブタイトルは「ともに生きる！まちづくり」に確定させていただく。

(3) その他

○ 事務局

この素案を基に、12月15日からパブリックコメントを実施したいと思う。

市民説明会については12月18日(火)の夜間と19日(水)の午前中に開催に変更させていただいている。次回の策定委員会は、来年2月5日火曜日、19時より、保谷庁舎にて開催する。

閉会